

平成24年度・自主研究会等の活動報告書

研究会等の名称	B C P 研究会
代表者	川野 浩史
参加者	計7名（会員5名、非会員2名） （会員） 清成真一、吉松研一、溝部敏勝、二宮基陽、川野浩史 （非会員）大友清貴、小野隆徳
研究会等活動の目的	「B C P（事業継続計画）」の研究及び立案支援の実体験（経験）によりスキルの向上をはかり、メンバーの診断士が、今後の支援（B C P立案支援）に役立てること。
活動の記録	研究会会合 平成24年度 計5回（各2時間～2時間30分） ・4月14日（土）、5月12日（土）、6月9日（土）、7月7日（土） ⇒先方企業にて、「B C P策定」に係るヒアリングおよび調整実施。 ・8月4日（土） ⇒先方企業にて、最終報告（B C P書面提示）実施。  なお、各回の間で、「B C P策定（書面準備）」に係る準備作業、および、メール等によるメンバー間の意見集約等実施。
研究会（調査研究事業）の成果	1. 県内某社（別府市、サービス業）の「B C P」策定を実際に支援。 ⇒「研究会」としての取り組みのため、「策定支援」に加え、「自ら策定してみる」ことにも重点を置いて実施。 ①実際の策定支援を実施できたこと（実体験できたこと）そのものが、最大の成果。 ②経営者（および経営陣・社員）に対し、どのようにしてB C Pに対する理解を深めていただくか、B C Pの必要性を認識していただくか、等を把握。 ③ヒアリングを行うに際しての留意点（特に、「どのような手順で行うのが適切か」、および「どこに力点を置くことが必要か」）等を把握。 ④実際の策定（書面作成）に際し、どのような点が戸惑う点なのか（手間がかかる、判断が難しい）等を身をもって経験。 ⑤「（経営上の）リスク」をどのように考えるか、に係る意識の向上。 ⇒上記①～⑤をふまえ、今後の実際の策定支援に反映できる（活かしていくことができる）、と考える （なお、B C Pに係る基本事項理解と研究は昨年度実施済。今年度は実践する段階としての取り組み。）
研究会（調査研究事業）の課題	1. 「支援先」（実践の場）の確保 すでに実務演習段階（実践段階）となっていることから、（当方の自己研鑽・専門家育成の意をふまえた上で）実際に支援を受けていただける企業の確保が必要。 ⇒当協会のホームページを通じ、支援先企業の募集を実施中。
中小企業経営者へのメッセージ	1. 策定した「B C P」そのものは万能ではありません。しかしながら、 ①緊急時に慌てない。（冷静な判断での対処が可能になる。） ②問題が発生してからの判断では時間を要することも、事前に策定（検討）しておくことにより、短時間での判断可能。 ③（経営者が負傷した場合でも）代行者による執行可能。 ④経営陣・社員に対する「意識付け」が進む。 等のメリットがあげられます。 2.（平時に）自社の事業を見つめなおす（再確認する）ことにつながります。 是非、「B C P」を策定してみることをお勧めいたします。